

6-8

デイサービス

意識改革

元気が出るデイサービス

当たり前の事を当たり前にやろう

社会福祉法人三徳会 成幸在宅サービスセンター

発表者：ケアワーカー 竹内 朗子

共同研究者：ケアワーカー 土橋 潤子

所在地：東京都品川区中延 1-8-7

TEL：03-3787-7492

E-mail：seiko-h@east.cts.ne.jp

FAX：03-3787-7494

URL：<http://www.seiko-home.com>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

特養・ショートステイ・支援センターと併設された、商店街の中ほどにあるデイサービスです。個々の希望、介護度に応じ、機能訓練・入浴・食事・クラブ活動・送迎等のサービスをケアプランに基づき提供しています。定員：基本デイ 20 名 認知デイ 10 名

〈取り組んだ課題〉

日々、利用者と接している中で、利用者自身が出来る事も職員が行っている事に疑問を持ち、どのようなデイサービスを目指していくのが良いのか、検討し実践した。

〈具体的な取り組み〉

期間 H19年8月～

デイサービスのコンセプトを考える

○元気が出るデイサービス

「出来る事は自分で、出来ない事はお互い助け合う」という考えのもと、柔軟な対応ができるようにした。

大まかな取り組み順

- ①テーブルにお茶セットを準備し、自分でお茶を入れる事が出来るようにした。
- ②食事は、テーブルにお櫃・お茶セット・箸立て・台布巾を置き、自分の物は自分で準備出来るようにした。出来る方には下膳も行ってもらうようにした。
- ③午後の時間に設けていたクラブ活動は、決まったプログラムを用意せず自分の取り組みたい事を行えるようにした（カラオケ・映画鑑賞・習字等）。
- ④今まで倉庫にあったレク用品を、取りやすいようにラックに入れてデイルームに置き、自分で好きな物（習字・絵画・将棋・折り紙等）を取れるようにした。



自分で出来る事はしてもらいたい、出来ない人を助けてもらいたい、又、やりたい事が出来るという事を理解してもらうような声掛けをしていった。

〈活動の成果と評価〉

○取り組み当初は、職員が手伝ってくれるのが当たり前という考えから利用者に戸惑いがみられ、職員も手を出してしまいそうになったが、一年間位かけ徐々に定着していった。

○本来、利用者が持っていた力を発揮できるようになった。

例)

- ・自分でお茶を入れることが出来ない方に入れてあげていた。
- ・片麻痺の方のコートを着るのを手伝っていた。

○自主的な発言・行動がみられるようになった。

例)

- ・「午後は散歩に行きたい」と計画している方は、自分で希望して午前中にお風呂に入る。
- ・「習字をやりたい」と思う方は、ラック物品を取りに行く。
- ・みんなが使ったコップを進んで洗う。

〈今後の課題〉

利用者がデイサービス内での役割意識を持ち、出来る事は自分でするという事は定着してきたので、今後もこのコンセプトのもとに今までの取り組みを継続していく。又、地域での役割を持てるような活動もしていきたいと考えている。

【メモ欄】